

試験結果報告書

殿

工事名：

試験の種類： 碎石 13-05

試験年月日： 令和6年2月26日

北九州市八幡西区大字畑576番地の3

株式会社 西村碎石所 大谷工場



写

この写しは原本と相違ないことを
証明致します

碎石 13-05

年 月 日

北九州市小倉南区大字呼野1035-5

株式会社 西村碎石所



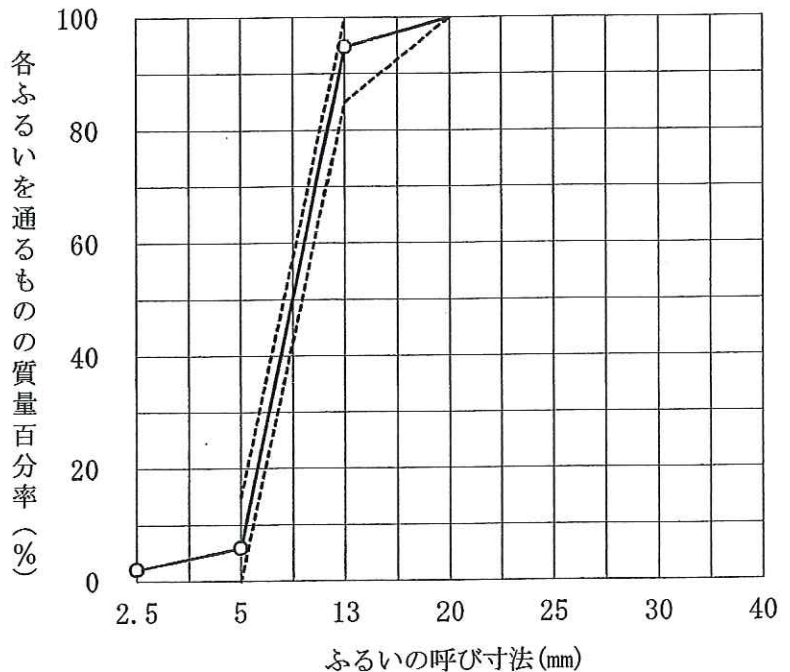
道路用碎石試験成績書

2024年2月26日

種類	単粒度 S-13 (6号)	原石の種類	硬質砂岩
製造会社名	株式会社西村砕石所	採取地の地名・地番	北九州市八幡西区大字畑字丸尾551外25筆
工場名	大谷工場	試験実施日	物理試験 : 2024年2月
試験項目 (物理試験)		規格値	試験値
絶乾密度 (JIS A 1110)		2.45g/cm ³ 以上	2.70
吸水率 (JIS A 1110)		3.0%以下	0.53
すりへり減量 (JIS A 1121)		35%以下	14.6
安定性 (JIS A 1122)		12%以下	0.7
軟石量 (JIS A 1126)		5.0%以下	2.9
単位容積質量 (JIS A 1104)		—	1.56kg/ℓ
粘土塊量 (JIS A 1137)		0.25%以下	0.0
細長い、あるいは扁平な石片 (舗装・調査試験法便覧)		10.0%以下	1.7
備考 表乾密度 (2.72)			

ふるい分け試験 (JIS A 1102)

	ふるいの呼び寸法	各ふるいを通るものの質量百分率 (%)
ふるい分け試験結果	30	—
	25	—
	20	100
	13	95
	5	6
	2.5	2



作成者

担当部署 : 品質管理課

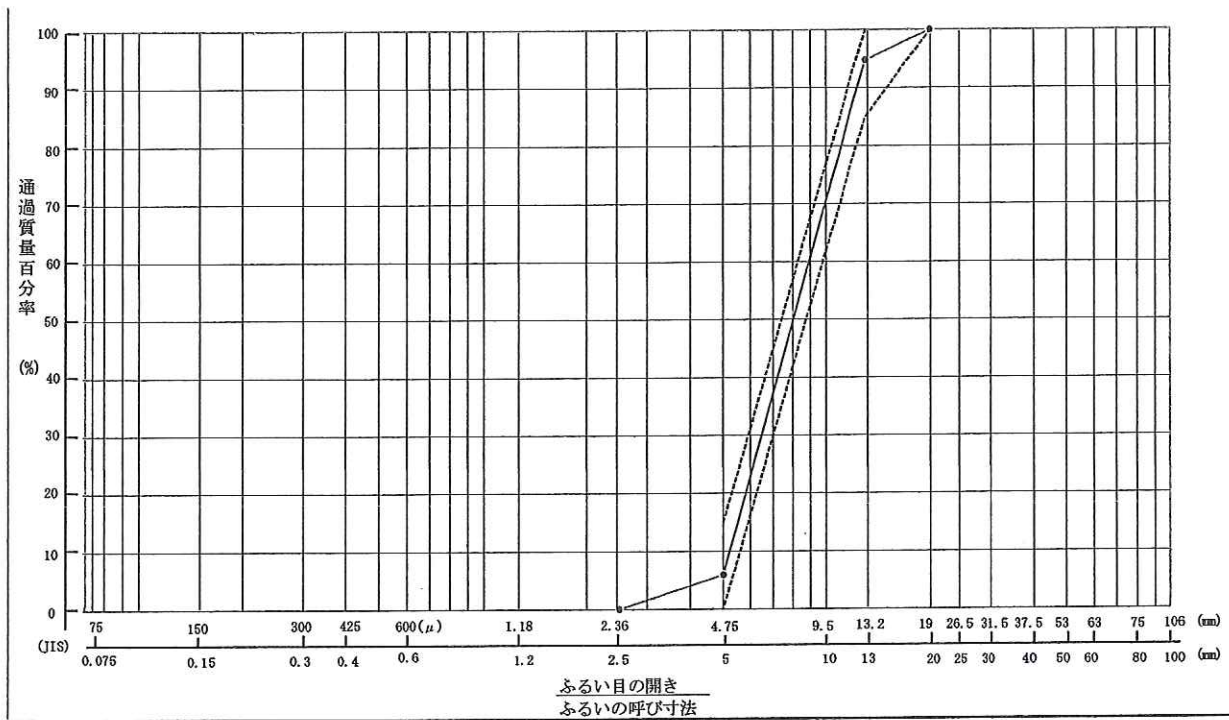
担当者名 : 福田 照人

JIS A 1102 骨材のふるい分け試験

試料番号 _____ 試験年月日 2024年2月2日
 調査名・目的 単粒度 S-13 (6号) 使用場所 _____
 試料採取場所 製品ヤード 試験者 福田照人

試験前の試料の質量 4,117 g
 試験後の試料の質量 4,115 g
 試験前後の質量の差 0.0 % (1%未満)

ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる量		各ふるいにとどまる量の累計		ふるいを通る量 (%)	粒度範囲 (%)
	(g)	(%)	(g)	(%)		
40						
30						
25						
20	0	0	0	0	100	100
13	216	5	216	5	95	85~100
10	—	—	—	—	—	—
5	3,657	89	3,873	94	6	0~15
2.5	156	4	4,029	98	2	
1.2						
0.6						
0.4						
0.3						
0.15						
0.075						
受皿	86	2	4,115	100	0	
計	4,115	100				



備考

粗骨材の密度及び吸水率試験

試料採取日 2024年2月1日 試験年月日 2024年2月5日

試験で用いた水の温度 20℃ 試験者 福田照人

		試験回数	
		1	2
m1 : 表面乾燥飽水状態	① ρ_w	0.9982	0.9982
における試料の質量 (g)	② m1	2116.4	2095.3
m2 : 試料とかごの水中の	③ $m_1 \times \rho_w$	2112.6	2091.5
見掛質量 (g)	④ m2	1688.7	1676.2
m3 : 金網かごの水中の	⑤ m3	350.1	350.1
見掛質量 (g)	⑥ ② - (④ - ⑤)	777.8	769.2
m4 : 絶対乾燥状態の	⑦ $D_s = ③ \div ⑥$	2.72	2.72
質量 (g)	表乾密度の平均値 (g/cm ³)	2.72	
Ds : 表面乾燥飽水状態に	表乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)	0.00	0.00
における密度 (g/cm ³)	⑧ m4	2,105.3	2,084.3
Dd : 絶対乾燥状態に	⑨ $m_4 \times \rho_w$	2,101.5	2,080.5
における密度 (g/cm ³)	⑩ $D_d = ⑨ \div ⑥$	2.70	2.70
Q : 吸水率 (質量分率) (%)	絶乾密度の平均値 (g/cm ³)	2.70	
ρ_w : 試験温度における	絶乾密度の平均値からの差 (g/cm ³)	0.00	0.00
水の密度 (g/cm ³)	⑪ $Q = \frac{② - ⑧}{⑧} \times 100$	0.53	0.53
	吸水率の平均値 (%)	0.53	
	吸水率の平均値からの差 (%)	0.00	0.00

※ 水の密度は、試験温度に応じて次の値を用いる。

温度 (℃)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
密度 (g/cm ³)	0.9991	0.9989	0.9988	0.9986	0.9984	0.9982	0.9980	0.9978	0.9975	0.9973	0.9970

※ 試験値は、平均値からの差が、密度の場合は0.01 g/cm³以下、吸水率の場合は0.03%以下でなければならない。

ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験報告書

試験年月日

2024年2月7日

試験者 福田照人

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2024年2月1日	試料の試験前における粒度	13~10 10~5
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)	粒度区分	C
試料番号	—	玉の個数及び全質量	鋼球8個 3329g
試料質量	40kg	円筒の回転数	500回

摘 要	測 定 値	
① 試験前の試料の質量 (g)	13~10	2,500
	10~5	2,500
	合 計	5,000
② 試験後の1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)	4,271	
③ すりへり損失質量①-② (g)	729	
④ すりへり減量 (%)	14.6	

$$\text{すりへり減量 (\%)} = \frac{\text{すりへり損失質量}}{\text{試験前の試料の質量}} \times 100$$

※ 粒度区分は、JIS A 5001による。

骨材の安定性試験報告書

2024年2月26日

試験年月日

2024年2月10日

試験者 福田照人

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2024年2月1日	試験溶液の種類	硫酸ナトリウム
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料番号		備考	5サイクル
試料質量	40kg		

通るふるい (mm)	とどまるふるい (mm)	①各群の質量分率 (%)	②試験前の各群の質量 (g)	③試験後の各群の質量 (g)	④各群の損失質量分率 $1 - \text{③}/\text{②} \times 100$ (%)	⑤骨材の損失分率 $\text{①} \times \text{④}/100$ (%)
40	25	—	—	—	—	—
25	20	—	—	—	—	—
20	15	3	0	0	0.3	0.0
15	10	49	500.7	499.1	0.3	0.1
10	5	48	301.1	297.5	1.2	0.6
合計		100	801.8	—	—	0.7

備考

$$\text{各群の損失質量分率}(\%) = \left(1 - \frac{\text{試験前の試料の質量}(g)}{\text{試験後の試料の質量}(g)} \right) \times 100$$

$$\text{骨材の損失質量分率}(\%) = \frac{\text{各群の質量分率}(\%) \times \text{各群の損失質量分率}(\%)}{100}$$

ひっかき硬さによる軟石量試験報告書

2024年2月26日

試験年月日

2024年2月9日

試験者 福田照人

試験採取箇所	製品ヤード	試験質量	40kg
試験採取日	2024年2月1日	試験採取方法	4分法
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試験番号		備考	

とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	①各群の質量分率 (%)	②試験前の各群の		③各群の軟石		④各群の軟石質量分率	⑤各群の軟石個数分率	⑥骨材の軟石量分率
			質量 (g)	個数 (個)	質量 (g)	個数 (個)	$③/② \times 100$ (%)	$③/② \times 100$ (%)	$① \times ④ / 100$ (%)
40	30	—	—	—	—	—	—	—	—
30	25	—	—	—	—	—	—	—	—
25	20	—	—	—	—	—	—	—	—
20	15	4	—	—	—	—	2.9	—	0.1
15	10	96	200.7	73	5.8	2	2.9	1.0	2.8
合計		100	200.7	73	5.8	2	—	—	2.9

骨材の単位容積質量及び実績率試験報告書

2024年2月26日

試験年月日
2024年2月5日

試験者 福田照人

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2024年2月1日	試料の詰め方	棒突き
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)	試料番号	
試料質量	100kg	合否判定	合格

摘 要	第1回測定	第2回測定	平均値
① 容器の容積 (ℓ)	10.0	10.0	—
② 容器中の試料の質量(g)	15,620	15,635	—
③ 単位容積質量 (kg/ℓ)	1.56	1.56	1.56
単位容積質量の平均値からの差 (kg/ℓ)	0.00	0.01	—
④ 絶乾密度 (kg/cm ³)	2.70	2.70	—
⑤ 実績率 (%)	57.8	57.8	57.8

※ 単位容積質量の平均値からの差は、0.01kg/ℓ以下でなければならない。

粘土塊量試験報告書

2024年2月26日

試験年月日

2024年2月9日

試験者 福田照人

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2024年2月1日		
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料質量	40kg	備考	

摘要	1回目	2回目	平均値
① 試験前の質量 (g)	2,130.2	2,097.4	—
② 試験後2.5mmふるいとどまったものの質量 (g)	2,129.6	2,096.5	—
③ 粘土塊の質量 (g) ①-②	0.6	0.9	—
④ 粘土塊量 (%) $\frac{\text{③}}{\text{①}} \times 100$	0.0	0.0	0.0
平均値との差 (%)	0.0	0.0	—

※ 粘土塊量の平均値からの差は、0.2%以下でなければならない。

骨材の形状試験報告書

2024年2月26日

試験年月日

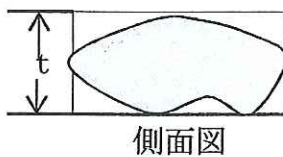
2024年2月5日

試験者 福田照人

試料採取箇所	製品ヤード	試料採取方法	4分法
試料採取日	2024年2月1日		
骨材の呼称	単粒度 S-13 (6号)		
試料質量	40kg	備考	

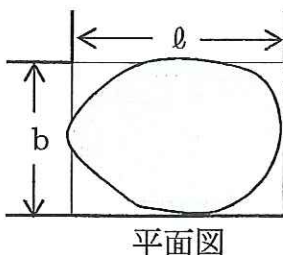
摘 要	
M1 細長いあるいは扁平と判定された骨材の質量 (g)	27.4
M2 細長いあるいは扁平と判定されなかった骨材の質量 (g)	1,631.5
細長いあるいは扁平な骨材の含有量 $\frac{M1}{M1 + M2} \times 100$ (%)	1.7

※ $\ell/t \geq 5$ にあてはまる骨材を細長いあるいは扁平な骨材とする。



水平面

b : 短径 粒子の平面図において、輪郭に接する2つの平行線間の最小距離



ℓ : 長径 上記の平行線間で、短径に対して直角方向の最大距離

t : 厚さ 水平面に平行で粒子表面に接する平行面間の最大距離

骨材を水平な面の上に置いたとき、最も安定した状態を上から見た図を平面図とする。